



**油流出への準備と対応：
期待と現実**

Karen Purnell, Managing Director



ITOPFのはじまり

石油企業、独立タンカー船主およびP&Iクラブの支援により、
1968年に設立

- 1966年 世界最大のVLCCが横浜で建造される(出光丸)
- 1967年 VLCCトリー・キャニオン号が座礁し、119,000トンのクウェート原油を流出
- 1969年 過失責任と強制保険が初めて議論される(東京)
- 船主たちが暫定的な自主措置について合意する(TOVALOP)
- TOVALOPを運営し、専門家の技術的助言を提供する目的でITOPFが設立される
- 現在では海運業界への主要な技術的助言者である



- 非営利団体
- 職員26名に加え、技術アドバイザー13名が週7日24時間体制で待機
- アドバイザーは国籍も経歴も異なる
 - 英国、米国 生物学者
 - 南アフリカ 化学者
 - フランス、オランダ エコノミスト
 - ベルギー、中国 エンジニア
- 豊富な実務経験と技術的知識
- 全世界を網羅するネットワーク
- 油流出に関する総合的資料およびデータベース



ITOPFの会員構成

- 正会員のタンカー船主5,980
- タンカー10,592隻、合計3億400万グロトン(GT)
- 非タンカー船舶 = 準会員
- 非タンカー船舶 合計4億9500万GT
- P&IクラブがITOPFの入会と会費支払いをアレンジ



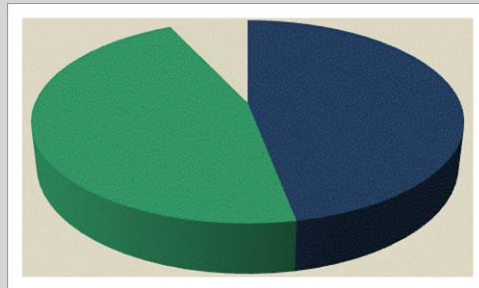
ITOPFの財源（2009～2010年）

その他の収入
7%

正会員

47%

0.68ペンス/GT



準会員

46%

0.40ペンス/GT

ITOPF理事会（2009年）



Teekay（会長会社）

Japan P&I	NYK Line
Nippon Oil Tanker Corporation	Vela International Marine Ltd
Transpetro	Shell International Trading& Shipping
Seagroup Inc	Keystone Shipping Corporation
Thomas Miller P&I Ltd	Stolt-Neilsen Transportation Group BV
BW Maritime Pte Ltd	Steamship P&I
ExxonMobil Global Marine	BP Shipping Ltd
Triandros Corporation	Reederei F Laeisz GmbH
Skuld P&I	AP Møller – Maersk A/S
Valles steamship Company Ltd	Sovcomflot
Stena Bulk AB	Chevron Shipping Company LLC



技術サービス

- 海洋油流出への対応
- 賠償請求分析および損害評価
- 緊急時計画策定および助言活動
- 訓練、セミナー、会議
- 情報サービス
 - 刊行物
 - データベース
 - ウェブサイト: www.itopf.com

現場におけるITOPFの役割

- 助言に徹する
- 協力と相互の合意
- 妥当かつ経済的な清掃活動を促進
- 各種資源に対する損害を最小限に抑える
- 賠償請求の許容性に関するガイダンス

損害査定人ではない

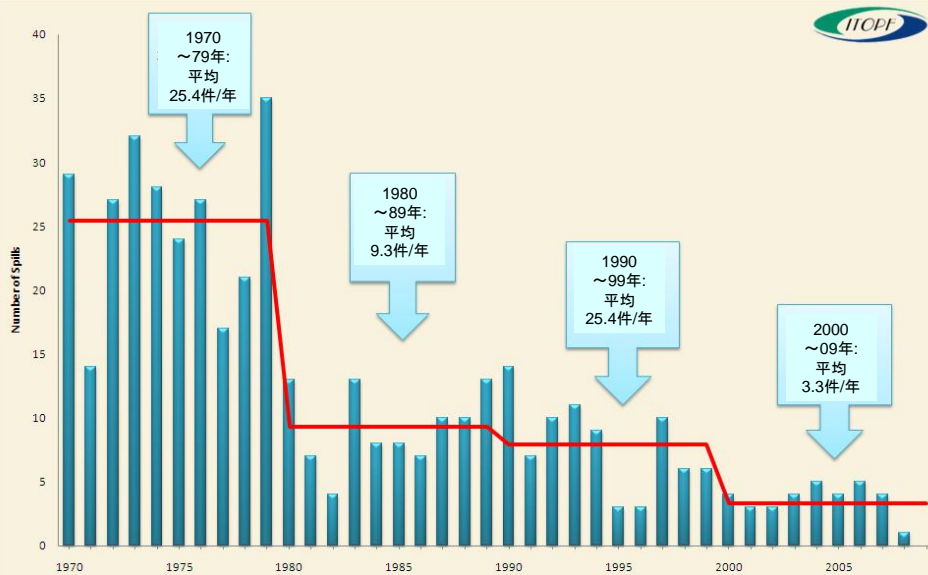
全世界の油流出事故に対応



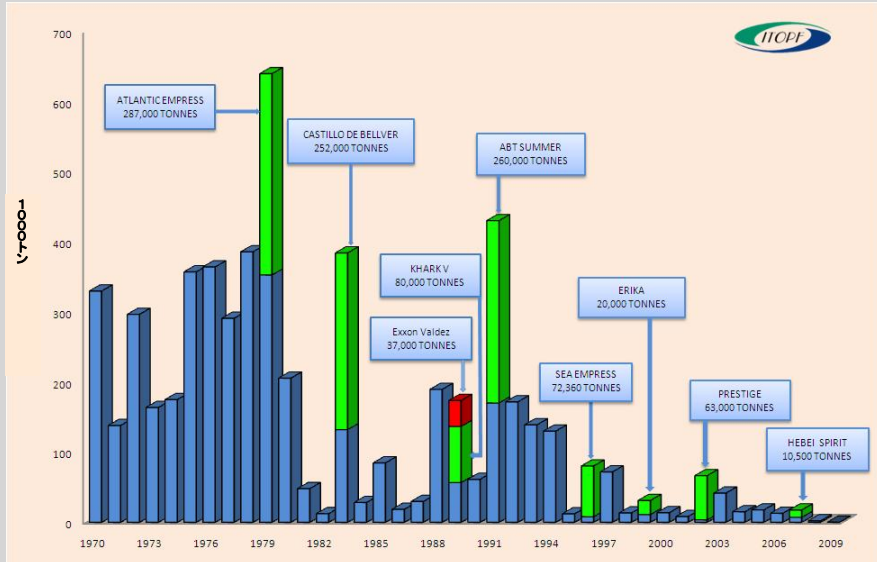
ITOPF: 1970年以降、99カ国で650件の油流出事故に対応

ITOPFの役割

タンカーからの油流出事故件数(700トン以上)の推移 (1970~2009年)

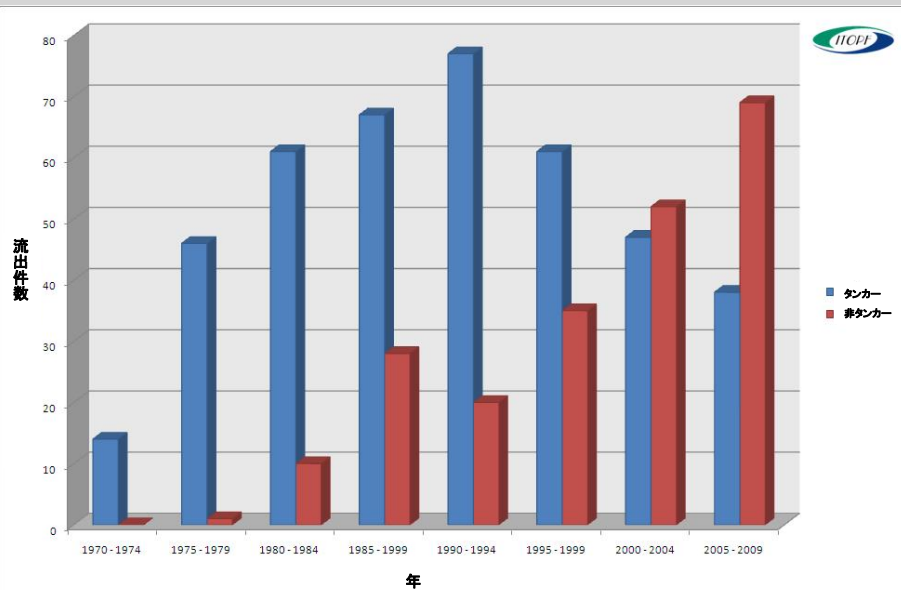


流出油のトン数 (1970～2009年)

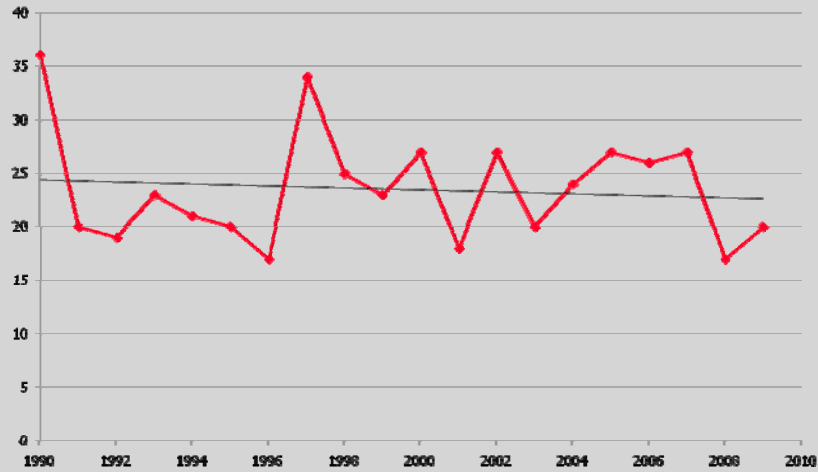


世界的な傾向

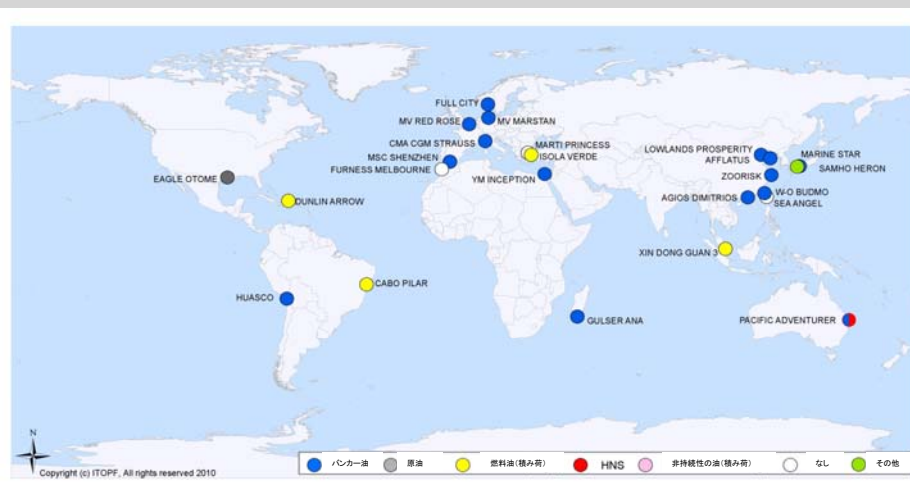
タンカーおよび非タンカー流出件数 (1970～2009年)



最近20年間にITOPFが対応した流出件数の推移



2009年1月以降に対応した油流出



2009年1月以降に対応した事故



日付	船名	国名	タンカー	油種
2009年				
2009/01/28	ASSALAMA	モロッコ	X	なし
2009/02/13	DUNLIN ARROW	ドミニカ共和国	X	バンカー油
2009/02/20	MARINE STAR	日本	X	バンカー油、燃料油(積荷)
2009/03/11	PACIFIC ADVENTURER	オーストラリア	X	バンカー油、HNS
2009/06/20	ISOLA VERDE	トルコ	○	燃料油(積荷)
2009/06/27	MARTI PRINCESS	トルコ	X	なし
2009/07/14	YM INCEPTION	エジプト	X	バンカー油
2009/07/31	FULL CITY	ノルウェー	X	バンカー油
2009/08/07	W-O BUDMO	台湾	○	NONE
2009/08/08	XIN DONG GUAN 3	マレーシア西沿岸	X	燃料油(積荷)
2009/08/26	GULSER ANA	マダガスカル	X	バンカー油
27/08/2009	CABO PILAR	ブラジル	○	燃料油(積荷)
2009/09/15	AGIOS DIMITRIOS	中国	X	バンカー油
2009/10/02	MV RED ROSE	フランス北沿岸	X	バンカー油
2009/10/23	MV MARSTAN	ドイツ	X	バンカー油
2009/10/24	LOWLANDS PROSPERITY	中国	X	バンカー油
2009/10/28	MSC SHENZHEN	スペイン	X	バンカー油
2009/11/01	ZOORIK	中国	X	バンカー油
2009/12/05	AFFLATUS	中国	X	バンカー油
2009/12/31	SAMHO HERON	日本	○	潤滑油
2010年				
2010/01/05	FURNESS MELBOURNE	モロッコ	X	なし
2010/01/12	HUASCO	チリ	X	バンカー油
2010/01/24	EAGLE OTOME	米国	○	原油
2010/01/26	SEA ANGEL	台湾	X	バンカー油

2010年

石油連盟 油流出に関する国際シンポジウム

「実際の油濁事故対応と訓練/演習に見る現実と形式」

油濁事故が減少する中で、いかに推進力を
質量ともに維持するか？

- 準備体制への現実的かつ持続可能な投資水準
- 歴史的に困難を経験している分野に重点を置く

油流出への準備・対応において いかに推進力を維持するかという課題

主要な課題

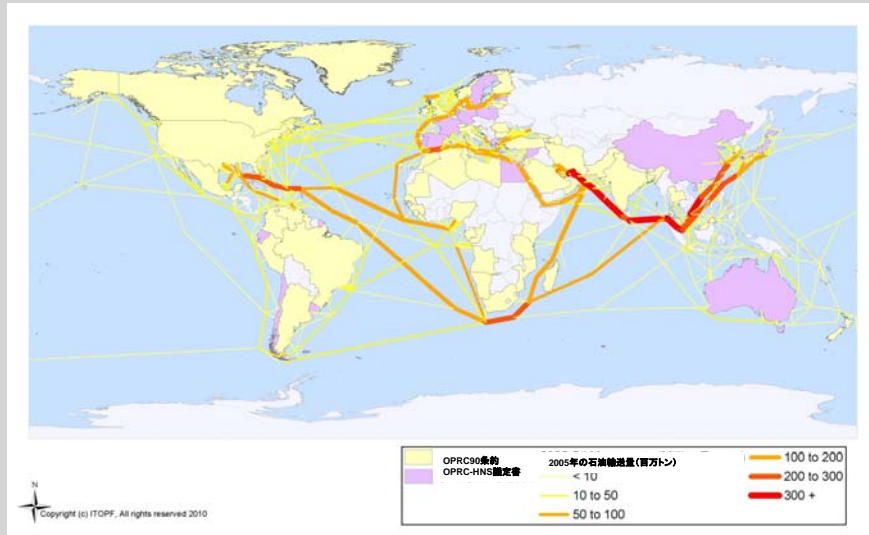
- 緊急時対応計画の質的ばらつき
- 不適切なリスク評価
- 役割と責任が不明確
- 外部資源(人的・物的)への過度の依存
- 不適切なロジスティック上/通関上のサポート
- 地域資源の不適切な統合
- 廃棄物問題への不適切な判断
- 損害賠償請求関係書類の不十分な整理

油流出への準備・対応において いかに推進力を維持するかという課題

主要な課題

- 緊急時対応計画の質的ばらつき
- 不適切なリスク評価
- 役割と責任が不明確
- 外部資源(人的・物的)への過度の依存
- 不適切なロジスティック上/通関上のサポート
- 地域資源の不適切な統合
- 廃棄物問題への不適切な判断
- 損害賠償請求関係書類の不十分な整理

石油の移動と流出への準備 条 約

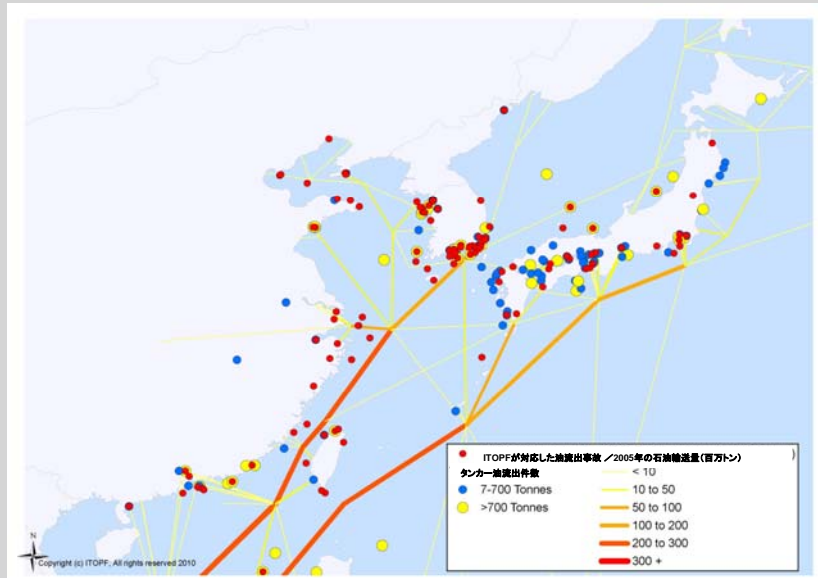


1990年OPRC条約

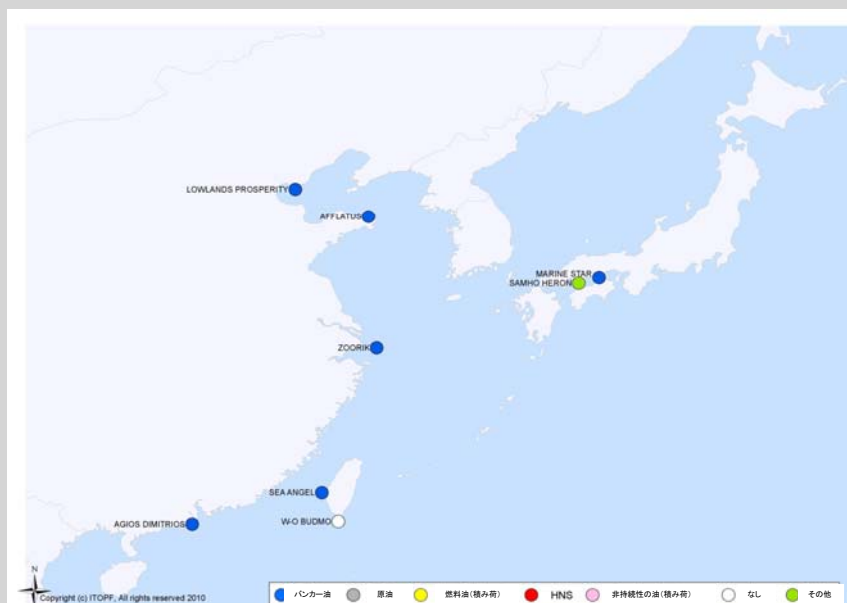
汚染事故に対し、国家レベルまたは
他国との協力による対策を確立することが目的

- 監督官庁の指定
- 国家緊急時計画
- 最小レベルの事前配備機材
- 訓練・演習プログラム
- 船籍国がSOPEP(油濁対応計画)を
確実に実行する

石油の移動とITOPFが対応した油流出事故



ITOPFが2009年以降に対応した油流出事故



油流出への準備・対応において いかに推進力を維持するかという課題

主要な課題

- 緊急時対応計画の質的ばらつき
- 不適切なリスク評価
- **役割と責任が不明確**
- 外部資源(人的・物的)への過度の依存
- 不適切なロジスティック上/通関上のサポート
- 地域資源の不適切な統合
- 廃棄物問題への不適切な判断
- 損害賠償請求関係書類の不十分な整理

役割と責任

- 「責任がある」の意味とは?
- 船主主導対応 vs 政府主導対応
- 全関係者が各自の役割を認識しているか?
- 全関係者が他人の役割を認識しているか?
- 全関係者に連絡がとれるか?
- 演習

油流出への準備・対応において いかに推進力を維持するかという課題

主要な課題

- 緊急時対応計画の質的ばらつき
- 不適正なリスク評価
- 役割と責任が不明確
- 外部リソースへの過度の依存
- 不適切な物流・通関サポート
- 地域リソースとの不適切な統合
- 廃棄物問題への不適切な判断
- 損害賠償請求関係書類の不十分な整理

油流出への準備・対応において いかに推進力を維持するかという課題

主要な課題

- 緊急時対応計画の質的ばらつき
- 不適切なリスク評価
- 役割と責任が不明確
- 外部資源(人的・物的)への過度の依存
- 不適切なロジスティック上/通関上のサポート
- 地域資源の不適切な統合
- 廃棄物問題への不適切な判断
- 損害賠償請求関係書類の不十分な整理

油流出への準備・対応において いかに推進力を維持するかという課題

主要な課題

- 緊急時対応計画の質的ばらつき
- 不適切なリスク評価
- 役割と責任が不明確
- 外部資源(人的・物的)への過度の依存
- 不適切なロジスティック上/通関上のサポート
- 地域資源の不適切な統合
- 廃棄物問題への不適切な判断
- 損害賠償請求関係書類の不十分な整理

油流出への準備・対応において いかに推進力を維持するかという課題

主要な課題

- 緊急時対応意計画の質的ばらつき
- 不適切なリスク評価
- 役割と責任が不明確
- 外部資源(人的・物的)への過度の依存
- 不適切なロジスティック上/通関上のサポート
- 地域資源の不適切な統合
- 廃棄物問題への不適切な判断
- 損害賠償請求関係書類の不十分な準備

賠償請求の支払い



- 賠償請求は、技術評価に基づく活動に関連し、規模が適正であり、経済性を実証できなければならない
= 妥当性
- 賠償請求は補償に適格な活動に対するものでなければならない
= 許容性
- 賠償請求は、保険会社が事実および根拠文書に基づいて評価できるよう、十分な詳細記述を含んでいなければならない
= 証拠

用意周到な損害賠償請求 = 速やかな支払い

まとめ

平時には、油流出事故に際して
問題が起こり得る分野を検討し、
演習や訓練時に
それらの分野の改善に注力し、
その後、
緊急時対応計画を更新すべきである



**油流出対策と対応
期待と現実**

Karen Purnell, Managing Director

